

1 級原計の1 2 は裏面

公益財団法人全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

平成 23 年 6 月 26 日実施

第72回 簿記実務検定第 1 級試験問題

原価計算

(制限時間 1 時間 30 分)

1

次の取引の仕訳を示しなさい。

- a. 月末における素材の実地棚卸数量は360個であった。よって、次の素材に関する当月の資料にもとづいて、素材勘定の残高を修正した。ただし、消費単価の計算は総平均法によっている。

前月繰越高	800個	@¥2,200	¥1,760,000
当月仕入高	3,000個	" "2,390	¥7,170,000
当月消費数量	3,400個		

- b. 単純総合原価計算を採用している富山製作所は、月末に工場の従業員に対する賞与の月割額を計上した。ただし、半年分の賞与の支払予定額は¥2,100,000である。
- c. 組別総合原価計算を採用している石川製作所における6月分の製品の販売に関する資料は、次のとおりであった。よって、売上高および売上原価を計上した。

	A 組	B 組
売上高(掛け)	¥3,840,000	¥2,600,000
売上製品原価	¥2,880,000	¥1,872,000

- d. 会計期末にあたり、製造間接費配賦差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、製造間接費配賦差異勘定の前月繰越高は¥64,000(貸方)であり、当月の製造間接費の予定配賦額¥2,460,000と実際発生額¥2,470,000との差額は、製造間接費配賦差異勘定に振り替えられている。
- e. 工場会計が独立している福井製作所の本社は、工場の従業員の賃金¥2,680,000について、所得税額¥173,000および健康保険料¥120,000を控除した正味支払額¥2,387,000を小切手を振り出して支払った。ただし、所得税預り金勘定および健康保険料預り金勘定は本社のみに設けてある。(本社の仕訳)
- f. 等級別総合原価計算を採用している新潟工業株式会社において、1級製品950個と2級製品1,600個が完成するとともに副産物が発生した。ただし、総合原価は¥1,776,000であり、そのうち副産物の評価額は¥26,000であった。なお、等価係数は次の各製品/個あたりの重量を基準としている。

/ 級 製 品 600g 2 級 製 品 300g

2

山梨工業株式会社の下記の資料によって、

- (1) 工程別総合原価計算表を完成しなさい。
- (2) 第2工程の月末仕掛品原価に含まれる前工程費を答えなさい。
- (3) 第1工程半製品勘定を完成しなさい。

ただし、i 第1工程の完成品はすべていったん倉庫に保管し、その後、第2工程(最終工程)に投入している。

ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、第1工程の完成品は第2工程の始点で投入されるものとする。

iii 加工費は第1工程・第2工程ともに製造の進行に応じて消費されるものとする。

iv 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

資 料

a. 当月製造費用

① 工程個別費および補助部門個別費

費 目	第1工程	第2工程	補助部門
素 材 費	¥2,565,000	—	—
労 務 費	¥ 798,000	¥ 762,000	¥ 351,000
経 費	¥ 143,000	¥ 209,000	¥ 270,000

② 部門共通費を次のとおり配賦する。

第1工程 ¥330,000 第2工程 ¥231,000 補助部門 ¥99,000

③ 補助部門費を第1工程に55%、第2工程に45%の割合で配賦する。

b. 月初仕掛品原価 第1工程 ¥558,000 (素材費 ¥396,000 加工費 ¥162,000)

第2工程 ¥873,000 (前工程費 ¥755,000 加工費 ¥118,000)

c. 月末仕掛品数量 第1工程 400個(仕上り程度50%)

第2工程 600個(仕上り程度40%)

d. 前 工 程 費 当月中に倉庫から第2工程に投入した第1工程の完成品は ¥4,050,000 である。

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 長野製作所における下記の資料により、製造原価報告書および損益計算書に記載する次の金額を求めなさい。なお、材料消費価格差異は売上原価に振り替える。

a. 当期材料費

b. 当期経費

c. 売上原価

資 料

① 素 材	当期予定消費高 ¥4,250,000		
	期首棚卸高 ¥1,020,000	当期仕入高 ¥4,625,000	期末棚卸高 ¥1,356,000
② 工場消耗品	期首棚卸高 ¥ 256,000	当期仕入高 ¥ 845,000	期末棚卸高 ¥ 247,000
③ 賃 金	前期未払高 ¥ 132,000	当期支払高 ¥5,260,000	当期未払高 ¥ 141,000
④ 給 料	当期消費高 ¥ 767,000		
⑤ 外注加工賃	前期前払高 ¥ 21,000	当期支払高 ¥ 423,000	当期前払高 ¥ 19,000
⑥ 電 力 料	当期支払高 ¥ 394,000	当期測定高 ¥ 389,000	
⑦ 減価償却費	当期消費高 ¥ 270,000		
⑧ 仕 掛 品	期首棚卸高 ¥1,340,000	期末棚卸高 ¥1,255,000	
⑨ 製 品	期首棚卸高 ¥1,436,000	期末棚卸高 ¥1,398,000	

- (2) 静岡工業株式会社は、直接原価計算をおこない利益計画をたてている。下記の資料から、次の金額または数量を求めなさい。

a. 販売数量が1,500個のときの営業利益

b. 損益分岐点の売上高

c. 目標営業利益 ¥200,000 を達成するための販売数量

資 料

① 販 売 価 格	@¥1,000
② 製 造 費 用	
変 動 製 造 費	@¥500
固定製造間接費	¥260,000

③ 販売費および一般管理費	
変 動 販 売 費	@¥180
固定販売費および一般管理費	¥100,000

- (3) 標準原価計算を採用している愛知製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。ただし、解答欄の () のなかに不利差異の場合は (不利)、有利差異の場合は (有利) と記入すること。

a. 完成品の標準原価 b. 直接労務費差異 c. 予算差異

資料

① 標準原価カード

H製品	標準原価カード			
	標準消費数量	標準単価	金	額
直接材料費	6kg	¥ 850	¥	5,100
	標準直接作業時間	標準賃率		
直接労務費	3時間	¥1,300	¥	3,900
	標準直接作業時間	標準配賦率		
製造間接費	3時間	¥1,000	¥	3,000
	製品 / 個あたりの標準原価			¥12,000

- ② 実際生産数量 月初仕掛品 300個 (仕上り程度60%)
完 成 品 800個
月末仕掛品 200個 (仕上り程度50%)
- ③ 実際直接労務費 (実際直接作業時間) ¥2,838,000
2,150時間 実際賃率 ¥1,320
- ④ 実際製造間接費発生額 ¥2,190,000
- ⑤ 製造間接費予算
変動費予算額 ¥ 660,000
固定費予算額 ¥1,540,000
基準稼働度 (直接作業時間) 2,200時間

- (4) 次の文の [] のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。
製品を製造するために要した費用に、製品の販売や企業全般の管理に要した費用を加えた原価を [] という。

1. 仕 入 原 価 2. 製 造 原 価 3. 総 原 価

4

東京製作所は、個別原価計算を採用し、A製品 (製造指図書#1) とB製品 (製造指図書#2) を製造している。下記の資料によって、次の各問に答えなさい。

- (1) 6月中の取引の仕訳を示しなさい。
(2) 部門費振替表を直接配賦法によって完成しなさい。
(3) A製品 (製造指図書#1) の原価計算表を完成しなさい。
(4) 月末仕掛品原価を求めなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	200個	@¥3,700	¥ 740,000
工場消耗品	360"	" " 125	¥ 45,000
仕 掛 品 (製造指図書#1)			¥3,165,000 (原価計算表に記入済み)

ii 素材の消費高の計算は先入先出法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。

iii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥1,100 の予定賃率を用いている。

iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予算額	¥9,600,000	¥3,600,000
年間予定直接作業時間	24,000時間	18,000時間

v 製造間接費勘定を設けている。

取引

6月 3日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	840個	@¥3,750	¥3,150,000
工場消耗品	1,640"	" " 125	¥ 205,000

10日 B製品 (製造指図書#2) の注文を受け、素材600個を消費して製造を開始した。

22日 製造経費を次のとおり小切手を振り出して支払った。

電 力 料	¥210,000	保 険 料	¥390,000
-------	----------	-------	----------

24日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃 金 総 額	¥3,950,000
うち、控除額	所 得 税 ¥316,000 健康保険料 ¥158,000

30日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は240個であった。よって、消費高を計上した。(間接材料)

② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。

製造指図書#1	1,930時間	製造指図書#2	1,570時間	間接作業	100時間
---------	---------	---------	---------	------	-------

③ 健康保険料の事業主負担分¥158,000を計上した。

④ 当月の製造経費消費高を計上した。

電 力 料	¥212,000	保 険 料	¥65,000	減価償却費	¥339,000
-------	----------	-------	---------	-------	----------

⑤ 当月の直接作業時間は次のとおりであった。よって、製造部門費を予定配賦した。

	第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1 980時間	950時間
	製造指図書#2 1,030時間	540時間

⑥ 製造間接費を次のように各部門に配分した。

第1製造部門	¥596,000	第2製造部門	¥217,000
動力部門	170,000	工場事務部門	121,000

⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

	配 賦 基 準	第1製造部門	第2製造部門
動力部門費	kW数×運転時間数	20kW×320時間	15kW×140時間
工場事務部門費	従 業 員 数	14人	8人

⑧ A製品 (製造指図書#1) 50個が完成した。

⑨ 当月の賃金実際消費高 ¥3,996,000 を計上した。

⑩ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

⑪ 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

1	借	方	貸	方
a				
b				
c				
d				
e				
f				

2 (1)

工程別総合原価計算表

平成〇年〇月〇分

摘 要	第 1 工 程	第 2 工 程	合 計
工程個別費 素材費	2,565,000		2,565,000
前工程費			
労 務 費	798,000	762,000	1,560,000
経 費	143,000	209,000	352,000
部門共通費 配賦額	330,000	231,000	561,000
補助部門費 配賦額			
当月製造費用			
月初仕掛品原価	558,000	873,000	1,431,000
計			
月末仕掛品原価		1,074,000	
工程完成品原価			
工程完成品数量	2,750個	2,500個	
工 程 単 価	¥	¥	

(2) 第2工程の月末仕掛品原価に含まれる前工程費 ¥

(3) 第 1 工 程 半 製 品
前 月 繰 越 306,000 第 2 工 程 製 造 ()
() () 次 月 繰 越 ()
() ()

3 (1)	a 当 期 材 料 費 ¥	b 当 期 経 費 ¥
	c 売 上 原 価 ¥	

(2) a 販売数量が1,500個のときの営業利益 ¥ b 損益分岐点の高 ¥ c 目標営業利益¥200,000を達成するための販売数量 個

試 験 場 校	受 験 番 号

原計の1得点

第72回 簿記実務検定 1級 原価計算 [答案用紙]

1級原計の2

(3)	a	完成品の標準原価 ¥	b	直接労務費差 ¥	()	c	予算差異 ¥	()
-----	---	------------	---	----------	-----	---	--------	-----

(4)

--

4

(1)		借	方	貸	方
	6月 3日				
	10日				
	22日				
	24日				
	30日				
	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
	⑦				
	⑧				
	⑨				
	⑩				
	⑪				

(2) 部門費振替表

直接配賦法

平成〇年6月分

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	工場事務部門
部門費合計		1,104,000	596,000	217,000	170,000	121,000
動力部門費	kW数×運転時間数					
工場事務部門費	従業員数					
配賦額合計						
製造部門費合計						

(3) 製造指図書# / 原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費				集計	
		部門	時間	配賦率	金額	摘要	金額
2,415,000	550,000	第1	500	400	200,000	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	50個
						製品単価	¥

(4) 月末仕掛品原価 ¥

--

試験場校	受験番号

原計の2得点

総得点

1

	借 方	貸 方
a	棚卸減耗費 94,000	素 材 94,000
b	製 造 350,000	従業員賞与手当 350,000
c	売 掛 金 6,440,000 売 上 原 価 4,752,000	売 上 6,440,000 A 組 製 品 2,880,000 B 組 製 品 1,872,000
d	製造間接費配賦差異 54,000	売 上 原 価 54,000
e	工 場 2,680,000	所 得 税 預 り 金 173,000 健康保険料預り金 120,000 当 座 預 金 2,387,000
f	1 級 製 品 950,000 2 級 製 品 800,000 副 産 物 26,000	製 造 1,776,000

2

(1)

工程別総合原価計算表

平成〇年〇月〇分

摘 要	第 1 工 程	第 2 工 程	合 計
工程個別費 素材費	2,565,000	—	2,565,000
前工程費	—	4,050,000	4,050,000
労 務 費	798,000	762,000	1,560,000
経 費	143,000	209,000	352,000
部門共通費配賦額	330,000	231,000	561,000
補助部門費配賦額	396,000	324,000	720,000
当月製造費用	4,232,000	5,576,000	9,808,000
月初仕掛品原価	558,000	873,000	1,431,000
計	4,790,000	6,449,000	11,239,000
月末仕掛品原価	500,000	1,074,000	1,574,000
工程完成品原価	4,290,000	5,375,000	9,665,000
工程完成品数量	2,750個	2,500個	
工 程 単 価	¥ 1,560	¥ 2,150	

(2)

第2工程の月末仕掛品原価 に含まれる前工程費	¥ 930,000
---------------------------	-----------

(3)

第 1 工 程 半 製 品

前 月 繰 越 306,000	第 2 工 程 製 造 (4,050,000)
(第 1 工 程 製 造) (4,290,000)	次 月 繰 越 (546,000)
(4,596,000)	(4,596,000)

3

(1)

a	当 期 材 料 費 ¥ 5,104,000	b	当 期 経 費 ¥ 1,084,000
c	売 上 原 価 ¥ 12,386,000		

(2)

a	販売数量が1,500個の ときの営業利益 ¥ 120,000	b	損益分岐点の 売 上 高 ¥ 1,125,000	c	目標営業利益¥200,000 を達成するための販売数量 1,750 個
---	-----------------------------------	---	-----------------------------	---	--

第72回 簿記実務検定 1級 原価計算 [解 答]

1級原計の2

(3)	a	完成品の価	9,600,000	b	直接労務費差	30,000 (不利)	c	予算差異	5,000 (不利)
-----	---	-------	-----------	---	--------	-------------	---	------	------------

(4)	3
-----	---

		借	方	貸	方
4	(1)	6月 3日	素 工 場 消 耗 品 3,150,000 205,000	買 掛 金	3,355,000
		10日	製 造	素 材	2,240,000
		22日	電 力 料 保 險 料 210,000 390,000	当 座 預 金	600,000
		24日	賃 金	所 得 税 預 り 金 健 康 保 険 料 預 り 金 当 座 預 金 316,000 158,000 3,476,000	
		①	製 造 間 接 費	工 場 消 耗 品	220,000
		②	製 造 間 接 費 3,850,000 110,000	消 費 賃 金	3,960,000
		③	製 造 間 接 費	健 康 保 険 料	158,000
		④	製 造 間 接 費	電 力 料 保 險 料 減 価 償 却 費 212,000 65,000 339,000	
		⑤	製 造	第 1 製 造 部 門 費 第 2 製 造 部 門 費 804,000 298,000	
		⑥	第 1 製 造 部 門 費 第 2 製 造 部 門 費 動 力 部 門 費 工 場 事 務 部 門 費 596,000 217,000 170,000 121,000	製 造 間 接 費	1,104,000
		⑦	第 1 製 造 部 門 費 第 2 製 造 部 門 費 205,000 86,000	動 力 部 門 費 工 場 事 務 部 門 費 170,000 121,000	
		⑧	製 品	製 造	5,870,000
		⑨	消 費 賃 金	賃 金	3,996,000
		⑩	賃 率 差 異	消 費 賃 金	36,000
		⑪	第 1 製 造 部 門 費 製 造 部 門 費 配 賦 差 異 3,000 5,000	製 造 部 門 費 配 賦 差 異 第 2 製 造 部 門 費 3,000 5,000	

(2) 部門費振替表
平成〇年6月分

直接配賦法		部門費			
部門費	配賦基準	金額	製造部門	補助部門	
部門費合計		1,104,000	596,000	217,000	
動力部門費	kW数×運転時間数	170,000	128,000	42,000	
工場事務部門費	従業員数	121,000	77,000	44,000	
配賦額合計		291,000	205,000	86,000	
製造部門費合計		1,104,000	801,000	303,000	

(3) 製造指図書# / 原価計算表

直接材料費		製造間接費				集 計	
直接材料費	直接労務費	部門	時間	配賦率	金額	摘要	金額
2,415,000	530,000	第 1	500	400	200,000	直接材料費	2,415,000
	2,123,000	第 1	980	400	392,000	直接労務費	2,673,000
	2,673,000	第 2	950	200	190,000	製造間接費	782,000
					782,000	製造原価	5,870,000
						完成品数量	50個
						製品単価	¥ 117,400

(4)	月末仕掛品原価	¥ 4,487,000
-----	---------	-------------